

令和4年度 第58回 指定都市子ども会育成研究協議会（大阪大会）報告

熊本市子ども会育成協議会

令和4年11月26日（土）～27日（日） 標記大会がKKRホテル大阪で行われました。市子協からは会長・副会長・事務局員の3人及び推進研究会推進委員1人（SL）の計4人が参加しました。



《大会の概要》

1 目的

「WITHコロナで未来につなげよう」をスローガンに、都市型子ども会としてコロナに打ち勝つ地域コミュニティのあり方、子ども会会員の増加を図るために魅力ある子ども会活動や子ども会に必要な指導者の育成、地域ボランティア活動への参画意識の向上について考えることを目的とする。

2 1日目

□ アトラクション : 鼓笛隊（市内小学生）

□ 開会式

・開会のことば・開会のあいさつ・主催者あいさつ（指定都市、全子連）・来賓祝辞（市長、市会議長）・来賓紹介・表彰式・閉式のことば

□ 分科会（第一分科会から第三分科会は同一テーマ）

共通テーマ 「Withコロナ 都市型子ども会の活性化」

○ 目的

都市型子ども会がコロナに打ち勝ち、会員の減少から増加に向かう魅力的な活動と、ジュニアリーダー並びに指導者の育成と保護者の取り込みが急務です。また、地域コミュニティへの参画が重要であり、単位子ども会活動の活性化の指針を考える。

○ 検討課題

都市型子ども会では、現状会員が減少の傾向にあります。また、コロナ禍での活動制限により、会員募集や行事が思うようにできず、子ども会としての活動も消極的になっています。

ここでは、子ども会役員・指導者が、新しい生活様式に意識をチェンジし、「Withコロナ」の中で、より活動が活性化できるよう、様々な地域の状況や思考を活かして、意見交換を行います。

この分科会で、各々の地域でも実践してみたいと思えるものを見つけていただけると幸いです。

○ 【検討課題（グループ討議）】・グループ発表

- ①魅力的な活動・行事
- ②ジュニアリーダーの育成
- ③指導者の育成と保護者の参加
- ④地域コミュニティとの関わり、協力
- ⑤会員の募集、広報、発信



○ 地区推進研究会

テーマ 「コロナを理由に逃げていないか？」

～コロナを理由に活動を止めていませんか？

休止、会員減少を容認していませんか～

※今回は、活動休止はコロナだけが原因ではなく、実は問題は違うところにあるのでは？ということ掘り下げ、今後の活動の工夫になるような話し合いが出来ればと考えている。

□ 情報交換会

- アトラクション : 「いくたまさんの獅子舞」・・・生國魂神社は大阪で最も古い神社（約2700年前の創建）とされ、市民から「いくたまさん」の名で親しまれている。奉納している組織の一つに「いくたま子ども獅子」があり、祭りを通して子どもの健全育成を図る役割を担っている。今回は指導者により、その伝統を披露）
- 情報交換会



3 2日目

□ 基調講演

演題 「地域の中で子どもを育てる」

講師 岡田 龍樹氏（天理大学副学長）

内容 （講演資料冊子から抜粋）



1 「子ども会の確認－子ども会の個人的理解

(1) 辞典から(「子ども会」新教育学大辞典1990、「子ども会の実践」新社会教育大辞典)
〈子ども会の歴史〉〈子ども会の成立〉〈子どもの会の課題〉 (共に野垣義行著)

「大人の管理・干渉を排した、自分たちの生活を自分たちで演出できる子ども会活動は、今日きわめて大きな意義を有しているといわなければならない。では今日の子ども会がこうした期待に答えているかというところではないと言った方が当たっていよう。子ども会がその期待に応えるためには次の問題を克服しなければならない。

① 子ども会そのものにかかわる問題

大人がお膳立てする子ども会でなく子どもが中心になって展開する子ども会の実現

② 活動の阻害条件

子どもたちは進学のための勉強に追われ、クラブ・部活動に時間を取られている、と同時に、両親や教師に子ども会活動そのものが正しく認識されていないため、その意義が正当に評価されていない。

③ 指導行政の一元化

子ども会成立のいきさつとも関係するが、市町村における子ども会担当部局が教育委員会ではなく市長部局であることが多く、教育としての捉え方が弱い。

(2) 地域の教育力の強化

3 地域の中で子どもを育てる ～子ども会の役割～

(1) 子ども会への期待(「子ども会」の現状と……あり方に関する一考察「環境と経営」2020

就学以降の児童は、子ども会への所属が地域とつながる接点の一つである。地域の行事へ子ども会として参加することや子ども会の行事を行うことにより、地域を知り、地域に住んでいる人を知ることにより、地域の一員であるという認識を持つと考える。「個」を重視し、人間関係の希薄化、社会からの孤立などの傾向がある時代だからこそ「個」と「個」がつながる子ども会の活動が必要ではないだろうか。社会を基盤とした組織化から生じる信頼できる関係、協力できる関係こそが、子どもの心身の成長にとって重要である。子ども会活動の衰退を抑止し、再生させるための方策を考えていくことが課題である。

(2) 若い世代への期待

(3) 「社会関係資本」を子ども会活動からつくる。

- ・ 日常会話をする程度の関係性を構築する
- ・ 自主的に地域のために活動している姿
- ・ 高齢者が生き生きとしている姿を見たり、高齢者にお世話になっているという認識
- ・ 地域社会の中での世代間の交流

(4) 年中行事と子どもの成長 (5) 日常的な場面から子どもの参画

分科会の検討課題は、熊本市子ども会の現状や課題と大変似たようなものであり、市子協が現在取り組んでいることと合致する内容が多くありました。そこで、市子協の参加者が、検討課題①～⑤について分科会で積極的に意見を述べることで、事前に、市子協の現状と実践等について事務局で取りまとめ、それを全員が持参して分科会に臨みました。

講演内容も子ども会の課題分析や子ども会活動のあり方について具体的に述べてあり大変有意義でした。市子協の活動の方向性について示唆するものでした。

